



サリエリに残された
唯一の手段は——
モーツァルト〈天才〉を
この世から消してしまうことだった!

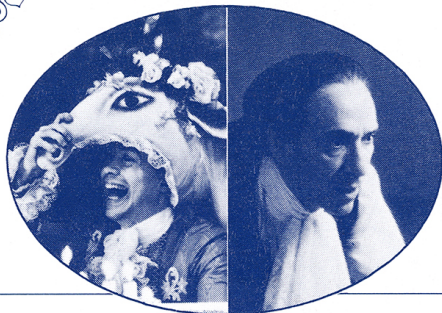
あなたが聞いた噂は、すべて真実だ

AMADEUS

アマデウス

F・マーリー・エイブラハム ■ トム・ハルス ■ エリサベス・ヘリッヒ
製作ソウル・セインツ ■ 監督ミロス・フォアマン ■ 脚本・原作ヒーター・シェファー 劇書房刊 ■ 撮影ミロスラフ・オントリチェク
音楽監督・指揮ネビル・マリナー サントラ盤 ヒクター・ルコート ■ 振付トウィラ・サーフ ■ 松竹富士株式会社 配給

DOLBY STEREO



AMADEUS

アマデウス

カラー作品 ● アメリカ映画

松竹富士株式会社 配給

●「モーツァルトは私が殺った」
音楽史を揺さぶる衝撃の告白、
その真相は?!

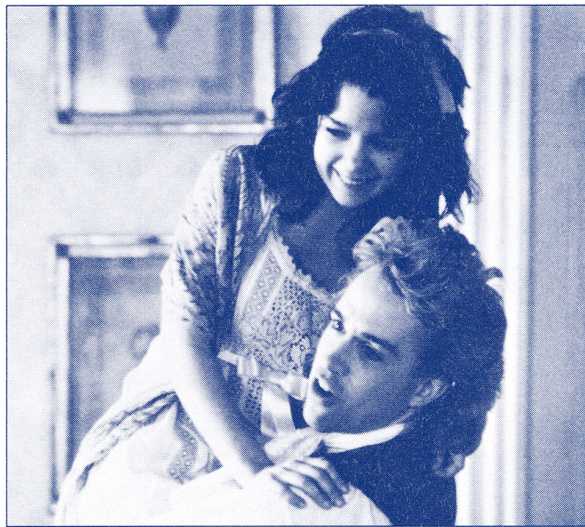
オーストリア、ウィーン、1823年11月のある夜。ひとりの老人が自殺をはかり、血まみれの指で虚空をつかみながら奇妙なことを口走った。『モーツァルト許してくれ、お前を殺したこの私を!』

彼の名はアントニオ・サリエリ。かつてウィーンの宮廷にその名を馳せた音楽家。そしてモーツァルト。もちろん天才の呼び声のもとに数多くの名旋律を残し、若くして逝った大作曲家。ともに、時の皇帝ヨゼフ二世の寵愛と加護のもとに、五線譜上でベン・の牙えを競った二人の男。だが一方が、音楽史上に不滅の名をとどめるのに対して、一方はその存在を知る者さえ希な人物。そして、片一方の不審な『死』。果たして、音楽という線で結ばれた二人の男の間に、何があったのか?!

●絢爛ウィーンの宮廷で、神をはざまに対決した天才VS凡人!

生まれはイタリアの小さな町。少年時代から音楽にヒラメキを見せたサリエリは、長じて、当時最高の音楽愛好家として知られたオーストリア皇帝ヨゼフ二世のお抱え作曲家にまで栄進した。音楽を通じて神に忠誠を誓った男の栄光だが、その至福の日々も一人のワイ雑で下品な若者の登場で、すべてがブチこわされた。その名はヴォルフガング・アマデウス・モーツァルト。軽薄極まりない人間性だが、それに対峙する許しがたき音楽の才。ガラガラと音をたててくずれる神との関係。憤怒やるかたない凡人サリエリは、天才モーツァルトへの恐るべき復讐を決意した! 華麗なる宮廷に流れるゴージャスな名曲の数々が、二人の音楽家の精神的死闘を彩る。やがて、息詰まるクライマックスが……。

●比類なき名舞台から、'80年代ベスト・ワンの娯楽大作へ



『モーツァルトはもしや殺されたのでは……』19世紀ヨーロッパに流布したミステリアスな噂をもとに、ピーター・シェファー(『エクウス』)が書き下した傑作舞台劇待望の映画化。『ギヤッツ』『ゴラス・ライン』とともに、近年のブロードウェイを席捲した名舞台が、無類の面白さを具えた娯楽映画として甦った! シェファー自らが原作をアダプトし、'75年度アカデミー賞を征覇した「カッコーの巣の上で」の名匠ミロス・フォアマン監督が、二年間に及ぶ映画化への夢を実現。

『魔笛』『フィガロの結婚』『ドン・ジョバンニ』『ピアノ協奏曲』……ふんだんに流れる名曲群、舞台にはないミュージカル場面の付加、チェコ、プラハにオール・ロケの立体感、そして、サリエリ役F・マリー・エイブラハム、モーツァルト役トム・ハルスの丁々発止、火花散る競演が、観るものを圧倒的な映画の興奮に引きずりこんでやまない。いま、映画はまぎれもなく舞台を超えた!

あなたが聞いたアカデミー賞最有力の噂は真実だ!!

「素晴らしいドラマ……本年度最大の収穫!」
ビンセント・キャンビー <ニューヨーク・タイムズ紙>

「かつて、これほど壮大な叙事詩があったか……」
ブルース・ウィリアムソン <プレイボーイ誌>

「心を奪う映画……神秘的なまでの名人芸」
シーラ・ベンソン <ロサンゼルス・タイムズ紙>

「限りなくパーフェクトに近い映画」
ジャック・マシュウ <ツディ誌>

全米マスコミ絶賛の声を浴びて、いま「アマデウス」の周辺は、近づく'85年アカデミー賞の話
題でもちきり。これは栄光のアカデミー賞スタッフが自信満々で再度の栄冠に挑む超大作だ!

'85年新春第2弾話題のロードショー

有楽町マリオン9F

丸の内ピカデリー1 (201) 2881

紀伊国屋ビルうら

新宿ピカデリー (352) 1771

東口

吉祥寺セントラル

0422 (48) 6521

◆特別鑑賞券(一般1200円/学生1100円) 好評発売中!!

■上映時間

連日 12:00 3:10 6:20